

都市の真ん中に描かれた白い帯の謎 (荒川放水路)

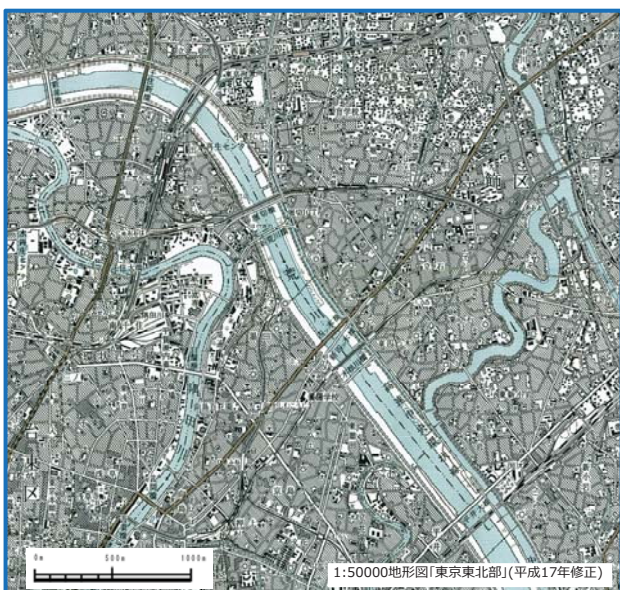
荒川は、かつて利根川の支流で下流部は隅田川から東京湾に注ぎ、たびたび水害を引き起こしていました。1907(明治40)年・1910(明治43)年の大洪水は被害が大きく、東京下町の洪水防止対策のため、隅田川の東側を開削して新たな放水路を建設し、荒川を分流する計画が立案されました。この大工事は、1911(明治44)年に着手して19年後の1930(昭和5)年に竣工しました。



放水路は建設中で、中川もほぼ旧流路のまま残り、また、鉄道及び道路も建設前の形状のままでしたが、その他はすべて地図上から消えてしまい白い帯状になってしまいました。



放水路は完成し、中川も分断されて上流部は葛飾区上平井から中川放水路として放水路に沿って東京湾に注ぎ、一方、下流部は墨田・江東区を流下して再び放水路に合流しています。常盤線は放水路に直角に横切り、東武鉄道伊勢崎線も堤防に沿う形に路線変更されました。



近年、放水路左岸は、かつて水害の被害を受けた地域も建物密集地として変貌を遂げ、右岸とともに工業用水の汲み上げによる地盤沈下から海拔0m以下の地域が広がるなど深刻な問題が生じました。